

第2次健康日本21ちた計画
最終評価報告書

令和5（2023）年3月

知多市

「第2次健康日本21ちた計画」最終評価報告書

1 「第2次健康日本21ちた計画」の策定と経過

「みんなが共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力あるまち」を目指し、平成15年度から平成24年度までを計画期間とする「健康日本21ちた計画（第1次計画）」を策定し、健康づくりを推進してきた。平成24年度には、第1次計画の最終評価を踏まえて、生活習慣病の増加や高齢社会の進行に伴う健康課題に取り組むため、平成25年度から10年間の計画として「第2次健康日本21ちた計画（第2次計画）」を策定し、引き続き健康づくりの推進に努めてきた。この計画の中間年度にあたる平成29年度には、第2次計画の中間評価・見直しを行った。

令和4年度に、国及び愛知県の計画期間延長の告示を受け、令和6年度末までの12年間に計画期間を延長した。

2 最終評価の目的

「第2次計画」の評価は、計画開始10年目の令和4年度に最終評価を行い、その評価を令和7年度以降の計画の推進に反映させることを目的としている。

3 目標達成状況の評価方法

最終評価では目標とした各指標について、計画策定時の基準値と直近との比較を行い（中間評価において新たに設定した指標については、指標とした時点を基準値として判定）その達成状況を表1の基準により6段階で評価した。

最終評価における目標に対する実績値の評価（直近値）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の令和元年のデータを用いて分析・評価を行うこととする。

表1 判定区分と判定基準

判定区分	判定基準
A 達成・概ね達成	目標達成または達成率90%以上
B+ 改善	現状値より改善（達成率50%以上90%未満）
B- やや改善	現状値よりやや改善（達成率10%以上50%未満）
C 変わらない	現状値から変化がない（達成率-10%以上10%未満）
D 悪化	現状値より悪化（達成率-10%未満）
E 判定不能	基準の変更により判定ができない

4 最終評価の結果

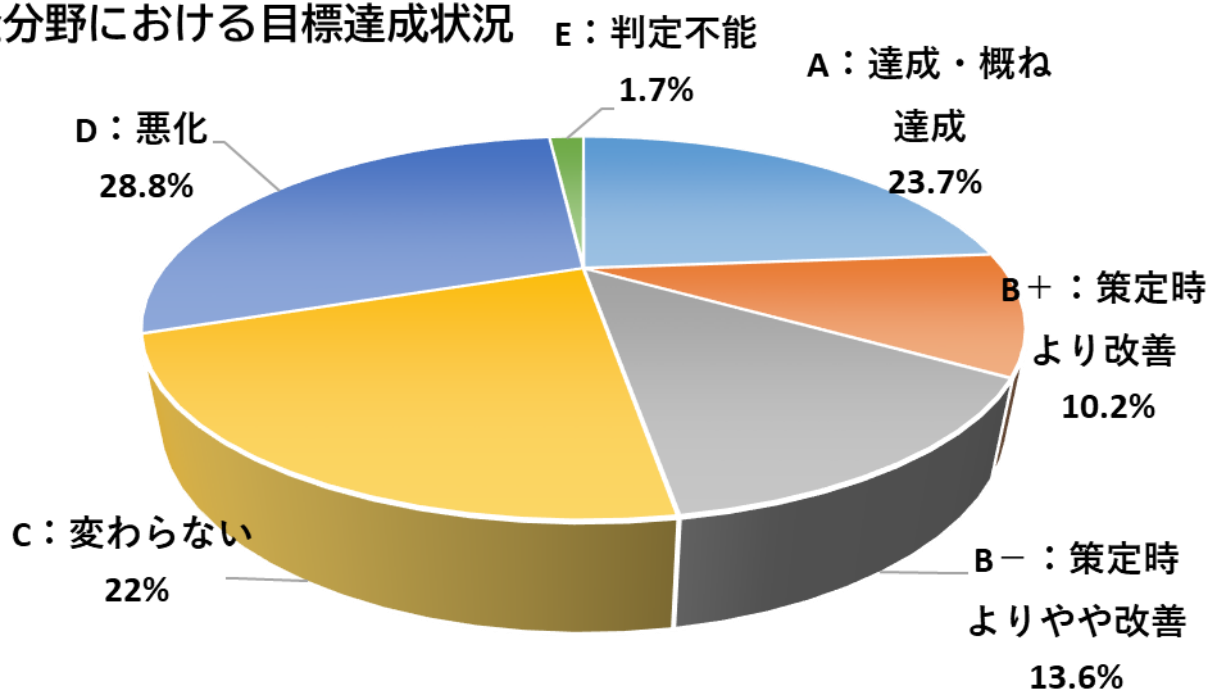
(1) 全体の目標達成状況の評価

指標の達成状況は、表2のとおりとなり、全59指標のうち「A 達成・概ね達成」は、14指標となり、全体の23.7%であった。また、「B 改善・やや改善」は、14指標、全体の23.8%となり、「A 達成・概ね達成」を含めた指標は28指標となり、全体の47.5%で一定の改善がみられた。反対に、目標に対して改善がみられず、「D 悪化」となったのは、17指標で、全体の28.8%であった。

表2 指標の達成状況

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	14指標 <23.7%>
B+ 改善	6指標 <10.2%>
B- やや改善	8指標 <13.6%>
C 変わらない	13指標 <22.0%>
D 悪化	17指標 <28.8%>
E 判定不能	1指標 <1.7%>
合計	59指標 <100%>

全分野における目標達成状況



各分野の目標達成状況

判定区分	指標数 <割合>	分野別の判定結果											
		豊かな人生	健康やかに 重化予防	がんの発症・ 重症化予防	糖尿病の 発症・ 重症化予防	栄養生活	身体活動・ 運動	飲酒	喫煙	休養・ こころの健康	歯の健康	次世代の 健康	高齢者の 健康
A	14指標 <23.7%>	1			4			2	1	3	1	2	
B+	6指標 <10.2%>			1	1	1	1				2		
B-	8指標 <13.6%>		2		1			1		1	2		1
C	13指標 <22.0%>		4	1	2					2	2		2
D	17指標 <28.8%>	1	4	4	1	1	2		1	1		2	
E	1指標 <1.7%>				1								
合計	59指標	2	10	6	10	2	3	3	2	7	7	4	3
A+B(達成+改善)率		50%	20%	16.7%	60%	50%	33.3%	100%	50%	57.1%	71.4%	50%	33%
D(悪化)率		50%	40%	66.7%	10%	50%	66.7%	0%	50%	14.3%	0%	50%	0%

なお、「A目標値に達した・概ね達した」から「E判定不能」までの各判定区分の主なものは表3のとおりであった。

表3 各判定区分の主なもの

判定区分	主なもの
A 達成・概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の要介護者増加率 ○「塩味は濃いほう」という人の割合 ○現在、たばこを習慣的に吸っている人の割合 ○自殺による死亡者 ○1人当たりのむし歯の数（5歳児・12歳児） ○夜9時までには就寝する3歳児の割合 ○低栄養傾向（BMI20以下）の割合
B+ 改善	<ul style="list-style-type: none"> ○HbA1c8.4以上で治療なしの人の割合 ○1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上行っている人の割合 ○妊娠中に飲酒する人の割合
B- やや改善	<ul style="list-style-type: none"> ○がん検診の受診率の向上（大腸がん検診・男性） ○妊娠中に喫煙する人の割合 ○医療機関にかかるような家庭内事故にあった1歳6か月児の割合
C 変わらない	<ul style="list-style-type: none"> ○がん検診の受診率の向上（胃がん・大腸がん女性・乳がん） ○40～60歳代女性の肥満（BMI25以上） ○自分の歯が24本以上ある60歳の人の割合
D 悪化	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病治療薬内服中又は、HbA1c6.5%以上の人の割合 ○日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合 ○睡眠で休養が十分にとれている人の割合 ○趣味を持っている高齢者の割合
E 判定不能	<ul style="list-style-type: none"> ○夕食後に間食（3食以外の夜食）をとることが週3回以上ある人の割合

(2) 分野別の評価

【健やかに豊かな人生】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	1指標 <50.0%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	0指標 < 0%>
C 変わらない	0指標 < 0%>
D 悪化	1指標 <50.0%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	2指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
高齢者の要介護者増加率	5.3%/年	3.5%/年	A	3.6%/年	A	5%/年以下
介護サービス受給率	11.0%	13.1%	D	13.3%	D	現状維持

- 「高齢者の要介護者増加率」は、人口構成のばらつきのために年度によるばらつきがみられたが、目標を達成した。
- 「介護サービス受給率」については悪化した。

今後の課題

- 高齢者人口の増加に伴い、要介護・要支援認定者数の増加が予測される。人生100年時代において、長きにわたって心身共に健康に暮らすことができるように、健康寿命の延伸に向けて、高齢者だけでなく、すべての世代の市民が自分に合った健康づくり、介護予防に取り組むことが必要。

【がんの発症・重症化予防】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	0指標 < 0%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	2指標 < 20.0%>
C 変わらない	4指標 < 40.0%>
D 悪化	4指標 < 40.0%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	10指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値	
		H28	目標達成度	R1	目標達成度		
がん検診の受診率の向上	肺がん検診（男性）	54.7%	51.8%	D	42.9%	D	60%以上
	肺がん検診（女性）	39.3%	38.0%	D	31.9%	D	50%以上
	胃がん検診（男性）	8.8%	9.5%	C	9.1%	C	20%以上
	胃がん検診（女性）	6.6%	6.6%	C	6.0%	C	20%以上
	大腸がん検診（男性）	12.9%	13.2%	C	15.2%	B-	30%以上
	大腸がん検診（女性）	10.7%	10.1%	C	11.1%	C	30%以上
	乳がん検診	22.1%	22.6%	C	22.7%	C	30%以上
	子宮頸がん検診	19.1%	17.4%	D	17.6%	D	30%以上
がんの標準化死亡比（SMR）	男性 94.3	100(H27)	D	92.7	B-	90.0 以下	
	女性 95.7	95.3(H27)	C	96.5	D	90.0 以下	

- がん検診の受診率は、部位別では多少の増減がみられたが、計画策定時と比較し、大腸がん検診（男性）においてやや上回る程度に留まっている。肺がん検診及び胃がん検診については、男女ともに悪化した。
- がんの標準化死亡比（SMR）は、男性は目標値に近づき、女性については悪化した。

指標に関連した主な取組

- がん検診を受診しやすくするため、検診項目の組み合わせや休日での実施など、集団検診日程を工夫。
- がんのリスクを高める生活習慣の情報や検診情報を、ホームページや広報等に掲載したほか、対象者への検診無料クーポン券通知時に同封。
- 子育て世代の受診率向上に向け、保育園・幼稚園保護者や親子ひろば健康教育時にチラシを配布。
- 商工会や企業と連携し、通知や会報、チラシ配布等により、幅広い世代への受診勧奨を実施。
- 国民健康保険の加入手続き時に、がん検診受診を促すチラシ、日程表を配布。

○医療機関での個別がん検診を実施。

主な課題と今後の取組

- がんの標準化死亡率（SMR）は、男性については計画策定時と比較し目標値に近づいたが、女性については悪化しているため、女性に対する効果的な取組が必要。女性特有のがんの早期発見につなげるため、女性の検診項目（乳がん検診、子宮頸がん検診）をまとめて受診できる集団検診日程を増やすことで改善を図る。
- がん検診の受診率は、令和2年度の県平均と比較すると、知多市は、胃がん、乳がんについては県平均よりも高いが、肺がん、子宮頸がん及び大腸がんは県平均よりも低い。今後もより一層受診率向上の対策が必要。
- がん検診の受診率が今後より一層向上するよう、市民に対するがん検診の啓発を関係団体や企業等と連携して取り組んでいくことが必要。
- がんやがん検診に関するリーフレット等を活用し、未受診者に対して普及啓発を進めるほか、受診者に対しては、継続的な検診受診を促す。
- 子どもの頃から適切な生活習慣や、がんについて正しい知識を理解することができるよう、他部署等と連携して普及啓発を進めていくことが必要。

【糖尿病の発症・重症化予防】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	0 指標 < 0% >
B+ 改善	1 指標 < 16.7% >
B- やや改善	0 指標 < 0% >
C 変わらない	1 指標 < 16.7% >
D 悪化	4 指標 < 66.7% >
E 判定不能	0 指標 < 0% >
合計	6 指標 < 100% >

※%表示の小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
糖尿病治療薬内服中又は、HbA1c6.5%以上の人の割合	12.1%	11.8%	A	12.5%	D	12%以下
HbA1c8.4%以上で治療なしの人の割合	39.4%	38.1%	C	31.3%	B+	25%以下
糖尿病性腎症による新規透析導入患者数	7人/(H28)	7人	-	8人	D	5人/年以下
高血圧の人の割合 (最高血圧130mmHg以上または、最低血圧85mmHg以上、または降圧剤服薬中)	54.7%	59.0%	D	59.6%	D	50%以下
特定健診実施率	48.7%	44.4%	D	47.7%	C	60%以上
特定保健指導実施率	54.0%	59.6%	A	49.3%	D	60%以上

- 「糖尿病治療薬内服中又は、HbA1c6.5%以上の人の割合」「糖尿病性腎症による新規透析導入患者数」は悪化した。
- 「HbA1c8.4%以上で治療なしの人の割合」は、段階的に減少し、目標値に向けて改善した。
- 「高血圧の人（最高血圧130mmHg以上または、最低血圧85mmHg以上、または降圧剤服薬中）の割合」は、計画策定時・中間評価時よりも悪化した。
- 「特定健診実施率」は、計画策定時と大きな変化は見られず、「特定保健指導実施率」は悪化した。

指標に関連した主な取組

- 糖尿病領域の人に対して、糖尿病性腎症重症化予防プログラムを実施。また、糖尿病領域及び糖尿病予備軍の人に対して糖尿病性腎症重症化予防講演会を実施。
- HbA1c8.0%以上（40、50歳代はHbA1c7.0%以上）で未治療の方への訪問指導を実施。
- 事業所における国保加入者の健診結果のデータ提供を受け、保健指導の案内を実施。
- 医療機関17か所、公立西知多総合病院での特定健診を実施。

主な課題と今後の取組

- 糖尿病有病者だけでなく、血糖コントロール不良者を減少させるため、糖尿病性腎症重症化予防プログラムにおいて、治療中の方も対象とし、かかりつけ医と連携を取りながら実施することが必要。
- 特定健診・特定保健指導実施率は県と比較すると高いが、近年伸び悩んでいるため、ナッジ理論を活用した受診勧奨や実施方法、内容の見直しが必要。

【栄養・食生活】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	4指標 <40.0%>
B+ 改善	1指標 <10.0%>
B- やや改善	1指標 <10.0%>
C 変わらない	2指標 <20.0%>
D 悪化	1指標 <10.0%>
E 判定不能	1指標 <10.0%>
合計	10指標 <100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
20～60歳代男性の肥満 (BMI25以上)	24.8%	26.6%	D	32.7%	D	20%以下
40～60歳代女性の肥満 (BMI25以上)	18.4%	17.8%	B-	18.7%	C	15%以下
20歳代女性のやせ (BMI18.5未満)	25.0%	27.3%	D	10.0%	A	20%以下
栄養のバランスに気をつけた食事 をしている子どもの割合	中学2年生 12.4%(H25)	2.9%	D	38.2%	B+	60%以上
	小学5年生 33.3%(H25)	15.1%	D	31.4%	C	60%以上
	5歳児 75.0%	85.0%(H26)	A	76.3%	B-	80%以上
「塩味は濃いほう」という 人の割合	11.6%	9.6%	A	8.7%	A	10%以下
食事を一人で食べる子ども の割合	5歳児 7.0%	1.0%(H26)	A	0.2%	A	5%以下
夕食後に間食(3食以外の 夜食)をとることが週3回 以上ある人の割合	9.5%	10.1%	D	評価不能	E	8.5%以下
学校給食における愛知県 産農作物の割合	47.1%	57.1%	A	49.0%	A	48%以上

- 「肥満者の割合」は、男性女性いずれの年代においても悪化した。また、「20歳代女性のやせ(BMI18.5未満)の割合」は、母数が少ないために年度によるばらつきが大きい目標を達成した。
- 「栄養のバランスに気をつけた食事をしている子どもの割合」は、いずれの年齢においても改善またはやや改善した。「塩味は濃い方という人の割合」は、年々減少し目標を達成した。
- 「食事を一人で食べる子どもの割合」は、年々減少し、目標値に達した。
- 「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週3回以上ある人の割合」は、特定健診の問診票からデータをとっていたが、平成30年度から問診項目が変更となったため、評価不能。

指標に関連した主な取組

- 関係機関との協働。(知多市健康づくり食生活改善協議会、知多市商工会)

- 食生活改善推進員養成講座、食生活改善推進員グループ学習会の実施、活動の支援。
- 野菜たっぷり！ヘルシーメニューの認定。
- 食育の日・食育月間を中心に、野菜摂取量の増加等の普及啓発の推進。
- 農業体験や調理実習による食育の推進。

主な課題と今後の取組

- 性・年齢を問わず、肥満者の増加があり、よく噛んで食べる習慣や食生活の改善を含めて肥満者の減少に向けた取組が必要。
- 栄養・食生活の改善に向けて、対象を絞った効果的な普及啓発が必要。
- バランスのよい食生活を若い世代や働き盛りの世代に浸透させる取組が必要。職域、学校保健の関係機関をはじめ、企業や関係団体と情報を共有し連携して普及啓発を実施。
- SNS等を活用し、若者世代に向けたバランスのよい食事についての周知を強化することが必要。

【運動・身体活動】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	0 指標 < 0% >
B+ 改善	1 指標 < 50.0% >
B- やや改善	0 指標 < 0% >
C 変わらない	0 指標 < 0% >
D 悪化	1 指標 < 50.0% >
E 判定不能	0 指標 < 0% >
合計	2 指標 < 100% >

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	57.2%	64.8%	A	47.3%	D	62%以上
1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上行っている人の割合	50.2%	51.7%	B-	53.8%	B+	55%以上

- 「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合」は悪化した。
- 「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上行っている人の割合」は、目標値に向けて改善がみられた。

指標に関連した主な取組

- 「知多市ウォーキングマップ」の改訂および周知啓発。
- あいち健康マイレージ事業の実施。
- 9月の健康増進普及月間を中心に、健康づくりに関する周知啓発を強化。
- いつでもどこでも気軽に健康づくりに取り組めるよう「ストレッチたイソウ」「ほぐれ〜る♪そよかぜ体操」を作成。
- あいち健康づくりリーダーと協働した取組の実施。
- 市や知多北地区社会体育連絡協議会によるレクスポーツ大会の実施。
- 企業によるウォーキング等のスポーツレクリエーション活動の実施。

主な課題と今後の取組

- 特定保健指導などを通して、日常生活における歩数増加のための支援が必要。
- あいち健康づくりリーダーやスポーツ推進員を活用した地域における健康づくりをさらに推進することが必要。
- 20～64歳の働き世代の運動習慣者増加のため、企業による健康経営を市と協働で取り組むことが必要。

【飲酒】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	0指標 < 0%>
B+ 改善	1指標 < 33.3%>
B- やや改善	0指標 < 0%>
C 変わらない	0指標 < 0%>
D 悪化	2指標 < 66.7%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	3指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
1日換算の飲酒量が男性2合以上、女性1合以上の人の割合	男性 7.4%	8.2%	D	9.0%	D	6.5%以下
	女性 3.2%	3.4%	D	4.3%	D	2.5%以下
妊娠中に飲酒する人の割合	2.6%	0.5%	B+	0.5%	B+	0%に近づける

- 「一日換算の飲酒量が男性2合以上、女性1合以上の人の割合」については、年々悪化した。
- 「妊娠中に飲酒する人の割合」は、目標値に向け改善した。

指標に関連した主な取組

- 飲酒が健康に与える影響や正しい飲酒量の情報を、特定保健指導等の機会でも周知したほか、健診結果通知に同封するチラシに掲載。
- 飲酒による胎児への影響についての情報を、母子手帳交付時に周知。
- 小中学校において、飲酒が未成年者や健康に与える影響について指導。
- 知多保健所において、精神科医師及び酒害相談員によるアルコール専門相談を実施。

主な課題と今後の取組

- 男女ともに生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者が増加しており、飲酒に伴うリスクに関する知識の普及を図ることが必要。
- アルコール健康問題啓発週間に合わせた効果的な普及啓発を行う。
- 特定健康診査・特定保健指導対象者において、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者や特定保健指導対象者への保健指導の徹底が必要。

【たばこ】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	2指標 <66.7%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	1指標 <33.3%>
C 変わらない	0指標 < 0%>
D 悪化	0指標 < %>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	3指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
現在、たばこを習慣的に吸っている人の割合	11.0%	10.2%	B+	9.8%	A	10%以下
妊娠中に喫煙する人の割合	3.9%	3.0%	B-	2.1%	B-	0%に近づける
受動喫煙防止対策に取り組んでいる事業所の割合	74.1%	80.6%	A	89.8%	A	80%以上

- 「現在、たばこを習慣的に吸っている人の割合」については、年々改善がみられ、目標を達成した。
- 「妊娠中に喫煙する人の割合」は、目標に向けて改善がみられた。
- 「受動喫煙防止対策に取り組んでいる事業所の割合」は、年々増加し目標値に達した。

指標に関連した主な取組

- 禁煙週間にあわせて禁煙キャンペーンや SNS を活用した動画配信を行い、たばこに関する正しい知識の普及啓発を実施。
- 喫煙が健康に与える影響についての情報を、母子手帳交付時に周知。
- 事業所を対象とした受動喫煙対策に関するアンケート調査を実施。
- 小中学校において、喫煙が健康に与える影響について指導。

主な課題と今後の取組

- 公共の場(市の関係施設)や事業所での分煙は徹底され、喫煙が及ぼす健康影響についての知識の普及については改善がみられた。
- 今後も企業や関係団体と連携した受動喫煙対策に向けて、情報提供及び普及啓発が必要。
- 禁煙外来の情報収集および禁煙希望者への支援の推進が必要。
- 禁煙治療の方法について周知を強化することが必要。
- 未成年者にタバコを吸わせない環境づくりが必要。

【休養・こころの健康】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	1 指標 < 50.0% >
B+ 改善	0 指標 < 0% >
B- やや改善	0 指標 < 0% >
C 変わらない	0 指標 < 0% >
D 悪化	1 指標 < 50.0% >
E 判定不能	0 指標 < 0% >
合計	2 指標 < 100% >

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
睡眠で休養が十分にとれている人の割合	78.9%	76.7%	D	75.3%	D	80%以上
自殺による死亡者	16 人/年	15 人/年 (H27)	B-	7 人/年	A	10 人/年 以下

- 「睡眠で休養が十分にとれている人の割合」については、年々減少し悪化した。
- 「自殺による死亡者」は、目標値に向けて改善し、目標を達成した。

指標に関連した主な取組

- 精神保健福祉士によるこころの健康相談の実施。
- 知多保健所において、精神科医師による精神保健福祉相談及び精神保健福祉相談員等によるこころの健康相談の実施。
- ゲートキーパー養成講座の実施。
- メンタルヘルスチェックシステム「こころの体温計」を導入し、活用推進。
- 9月、3月に自殺予防キャンペーンの実施。
- 小中学校において、休養や睡眠に関する情報を周知。
- 「つ・な・ぐシート」を活用した自殺未遂者への支援の実施。

主な課題と今後の取組

- 自殺対策計画を次期計画に盛り込み、自殺対策計画に基づく取組の推進が必要。
- 経済的な困難、孤立・孤独の増加等、様々な要因によって、コロナ禍はこころの健康に無視できない悪影響を与えている可能性が考えられ、今後も注視が必要。
- 感染症対策として、人との交流が減ったことにより、相談する機会が減少していることが考えられる。地域・職域保健の中で実施している相談支援体制整備をさらに進めていくことが必要。
- 警察庁「自殺統計」によると、女性や学生・生徒等における自殺者数の増加が目立っており、今後も注視が必要。

○女性について、妊娠・出産・更年期等が心理的苦痛に影響している可能性がある。
こんにちは赤ちゃん訪問事業、妊産婦検診・産後ケア等の母子保健等と連携してメンタルヘルス推進策を推進していくことが必要。

【歯の健康】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	3指標 <42.9%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	1指標 <14.3%>
C 変わらない	2指標 <28.6%>
D 悪化	1指標 <14.3%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	7指標 < 100%>

※%表示の小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
歯の健康づくり得点が16点以上の人の割合	23.8%	26.5%	A	23.8%	C	25%以上
歯周病を有する人の割合 (CPIコード3以上)	20歳代 7.5%	10.8%	D	5.1%	B-	5%以下
	40歳代 19.5%	34.2%	D	35.6%	D	16%以下
1人あたりの乳歯のむし歯の数(5歳児)	2.3本	1.49本	A	1.32本	A	1.7本以下
1人あたりの永久歯のむし歯の数(12歳児)	1.38本	0.83本	A	0.83本	A	0.9本以下
集団フッ化物洗口を実施する施設	2施設	30施設	A	29施設	A	20施設以上
自分の歯が24本以上ある60歳の人の割合	87.8%	91.6%	A	90.9%	C	92%以上

- 「歯の健康づくり得点が16点以上の人の割合」は変化が見られなかった。
- 「歯周病を有する人の割合(CPIコード3以上)」は40歳代で悪化し、20歳代では目標値に向けて改善した。
- 「1人あたりのむし歯の数」は、5歳児・12歳児ともに目標を達成し、「集団フッ化物洗口を実施する施設」についても目標を達成した。
- 「自分の歯が24本以上ある60歳以上の人の割合」は目標値に向けて改善したが、目標には達しなかった。

指標に関連した主な取組

- 保育園、幼稚園及び学校での集団フッ化物洗口の推進。
- 8020、9020運動の推進。
- 保育所や学校教育での健康教育による歯みがき指導の実施。
- 産婦歯科健診の推進。
- 歯周疾患検診の推進。

主な課題と今後の取組

- 今後の高齢化の進展などを踏まえ、健康寿命の延伸のため、歯周病予防を含めた口腔機能維持・向上を図ることが必要。
- 永久歯う蝕予防については、保育園、幼稚園、小学校における集団フッ化物洗口を引き続き効果的に推進することが必要。
- 子ども1人あたりのむし歯の数は目標に達したものの県平均と比べるとまだまだ多い状況のため、引き続きむし歯予防の情報提供及び普及啓発が必要。
- 歯周病を予防し、全身の健康につなげるため、働き世代への情報提供及び普及啓発が必要。

【次世代の健康】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	1 指標 <14.3%>
B+ 改善	2 指標 <28.6%>
B- やや改善	2 指標 <28.6%>
C 変わらない	2 指標 <28.6%>
D 悪化	0 指標 < 0%>
E 判定不能	0 指標 < 0%>
合計	7 指標 < 100%>

※%表示の小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
低出生体重児の割合	9.2%	12.0%(H27)	D	8.6%	B+	8.5%以下
肥満度20%以上(肥満傾向)の割合	7.4%	8.4%	D	7.9%	C	7%以下
夜9時まで就寝する3歳児の割合	66.0%	79.5%	A	72.7%	A	70%以上
朝食を毎日食べている子どもの割合	中学2年生 76.2%(H25)	71.4%	D	91.2%	B+	100%に 近づける
	小学5年生 87.1%(H25)	90.6%	B-	91.4%	B-	100%に 近づける
	5歳 98.0%	95.0%(H26)	D	90.7%	C	100%に 近づける
医療機関にかかるような家庭内事故にあった1歳6か月児の割合	15.8%	15.0%	B-	13.3%	B-	10%以下

- 「低出生体重児の割合」は目標値に向けて改善がみられた。「肥満度20%以上(肥満傾向)の割合」は改善がみられなかった。
- 「夜9時まで就寝する3歳児の割合」は目標を達成した。
- 「朝食を毎日食べている子どもの割合」は小学生・中学生ともに目標値に向けて改善し、5歳児は改善がみられなかった。
- 「医療機関にかかるような家庭内事故にあった1歳6か月児の割合」は、目標値に向けて改善したが目標には達しなかった。

指標に関連した主な取組

- 「知多市子育て世代包括支援センター」の設置。(H30)
- 乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業の実施。
- 市民委託による「子育てきらきら通信」の発行。
- 子育てに関する相談、教室及び健康教育の実施。
- 市民団体との協働事業の実施。
- 小中学校において、心身の成長や食に関する情報を周知。

主な課題と今後の取組

- 健康的な生活習慣を有する子どもの割合は、計画策定時よりも増加しているが、肥満傾向のある子どもの割合はやや悪化しており、運動不足が悪化の要因と考えられる。
- 妊婦、子育て世帯やその家族に向けた子どもの健康づくりに関する情報提供及び普及啓発が必要。
- 引き続き、教育機関、子育てに関係する部署及び市民団体や医療機関との連携が必要。

【高齢者の健康】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	2指標 <50.0%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	0指標 < 0%>
C 変わらない	0指標 < 0%>
D 悪化	2指標 <50.0%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	4指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
低栄養傾向（BMI20以下）の割合	17.9% (H28)	17.9%	-	17.3%	A	17.5%以下
週1回以上外出している高齢者の割合	96.2% (H28)	96.2%	-	96.9%	A	100%に近づける
趣味を持っている高齢者の割合	87.6% (H28)	87.6%	-	87.3%	D	90%以上
半年前に比べて固いものが食べにくくなった高齢者の割合	26.9% (H28)	26.9%	-	28.0%	D	20%以下

- 「低栄養傾向（BMI20以下）の割合」「週1回以上外出している高齢者の割合」は目標を達成した。
- 「趣味を持っている高齢者の割合」「半年前に比べて固いものが食べにくくなった高齢者の割合」については、悪化した。

指標に関連した主な取組

- 接骨院、介護保険事業所等を会場とした、気軽に通える体操教室「まちかど体操クラブ」を実施。
- 一般介護予防事業として、フレイル予防、オーラルフレイル予防の普及啓発を強化。
- 令和4年度より高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を開始。低栄養傾向者へのハイリスク者訪問やサロンへのポピュレーションアプローチを日常生活圏域ごとに実施。
- 国立長寿医療研究センターとの協定の下、「脳とからだの健康チェック」「コグニ倶楽部」を実施。また、認知症高齢者を支える地域づくりとして、認知症サポーター養成講座を実施。
- リハビリテーション職、健康づくりリーダー等と連携し、介護予防を推進。

主な課題と今後の取組

- 今後、後期高齢者の割合が急速に高まっていくことから、要介護・要支援認定者数は大きく増加することが予想される。要介護状態にならないよう各関係機関や関係団体等と連携し、より一層介護予防の取組を推進することが必要。

○新型コロナウイルス感染症の影響によるフレイル進行を防止するための対策を、引き続き推進することが必要。

【健康づくりに取り組みやすい環境の拡大】

判定区分	全体<割合>
A 達成・概ね達成	0指標 < 0%>
B+ 改善	0指標 < 0%>
B- やや改善	1指標 < 33.3%>
C 変わらない	2指標 < 66.7%>
D 悪化	0指標 < 0%>
E 判定不能	0指標 < 0%>
合計	3指標 < 100%>

指標	基準値 (H23)	中間評価		最終評価		目標値
		H28	目標達成度	R1	目標達成度	
健康と人の絆づくり隊登録人数	2,167人 (H28)	2,167人	-	2,500人	C	6,000人
野菜たっぷり!!ヘルシーメニュー提供店舗数	14店舗 (H28)	14店舗	-	16店舗	B-	20店舗
わ〜くわくマイレージWEB版登録人数	30人 (H28)	30人	-	293人	C	3,500人

- 「健康と人の絆づくり隊登録人数」「野菜たっぷり!!ヘルシーメニュー」は、目標値に向けて増加したが目標値には達しなかった。
- 「わ〜くわくマイレージWEB版登録人数」は、目標値に近づけず、令和2年度で終了した。

指標に関連した主な取組

- 健康と人の絆づくり隊の普及啓発。
- 野菜たっぷり!!ヘルシーメニューの認定。
- わ〜くわくマイレージの普及。

主な課題と今後の取組

- 個人の健康は、家庭、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、町（コミュニティ）全体で健康を支え守る環境づくりに努めていくことが必要。
- 自分の健康づくりに取り組みやすい実施方法、内容の検討が必要。
- 野菜たっぷり!!ヘルシーメニュー認定店舗数の拡大と普及啓発を実施。

5 次期計画に向けての課題

各分野から見えてきた課題や国の新たな動き等を踏まえ、次期計画に向けての課題について以下のように考え、今後検討を進めていく。

- 新型コロナウイルス感染症拡大による影響を踏まえた健康づくり施策
- データを利活用し、より効果的に住民の行動変容を促す方策
- 環境整備による、健康無関心層を含めた健康づくり施策の推進
- 健康づくり分野におけるコミュニティ力を向上させるための方策
- 糖尿病予防対策における医療機関との連携
- 飲酒に伴うリスクに関する知識の普及を図るため、アルコール関連問題啓発週間に合わせた啓発の推進
- 高齢者人口の増加に伴い、慢性的な疾患の患者や介護を必要とする人の増加が見込まれることに対し、「国民健康保険の保健事業」と「介護保険の地域支援事業」、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」の相互事業の連携
- 企業による健康経営との連携
- 子ども家庭センター設置による包括的な子育て支援の充実
- 健康増進施設の活用による、健康づくり施策の推進
- 自殺対策計画との統合
- 第6次総合計画及び関係する計画との総合的な推進